



串木野中学校教頭通信

Kyo to correspondence

～当たり前のことを当たり前～

第30号

令和5年11月 9日(木)

いちき串木野市立串木野中学校教頭
文責 長岡

串中にとっては当たり前！

学校にお客様が来られた際に、学級に案内するのは教頭先生の役割になります。

その時に必ず通る場所が『玄関』です。

お客様方は必ず「靴が綺麗にそろっていますね」と言います。教頭先生は「え？あ～そうですか？串中にとっては当たり前ですから！」とクールに決めながら、心の中では爆発的に喜んでガッツポーズをしています(笑)

教頭通信第1号で確認

串木野中学校当たり前基準

4 環境を整える

② **靴, スリッパをきれいに並べる**

学校は

- ① 玄関(靴棚)の様子
- ② トイレ(スリッパ)の様子
- ③ 作業(掃除)の様子

をみたら、だいたいその学校の雰囲気が分かると言われてます。

①, ②ですが、まずは「揃える」という漢字に注目しましょう！「手」を「前」に」と書きますね。トイレでスリッパを揃える時、足でやっている人はいませんよね？

そして、「揃える」という行動を意識して続けていくと、『継続力』『整理整頓する習慣』が身に付き、『相手を気遣える』ようになるでしょうね。

次に③ですが、「掃除」は何のためにすると思いますか？「綺麗になる」「自分のため」「学校のため」「片付いていると気持ちいい」…等、たくさん答えはあると思いますが、教頭先生が一番大切だと思っているのは『「気付き力」が上がる』ことです。

同じ場所を同じ時間で掃除をお願いしても個人差が発生します。言われた場所を言われた通り掃除する人、特に汚れた所を探して気付いて掃除する人,, 差がでます。

毎日の掃除の時間を「言われた通り掃除」するのか、「色々気付きながら掃除」するのか,, 9年間の義務教育を経て大きな差が生まれそうですね。

そんな気付く人がたくさんいたら『掃除を一生懸命する学校=普段からゴミも落ちていない学校』となっていきます。

靴が揃っているという話からだいぶズレましたが(笑)今できていることは継続して、できていないところはできるように意識して取り組んでいきましょう。



ちいさいことをかさねることが、
とんでもないところに行く
ただひとつの道

イチロー